

原著 (Article)

「保育内容総論」をととして学生は何を学ぶか

What Students Learn from 'Introduction to Child Care and
Preschool program'

朴 信永*
PARK, Shinyoung*

要 旨

小学校教員養成課程における3年次学生を対象に後期の科目「保育内容総論」の講義中、乳幼児と保育に関する記述を4回求めた。テキストマイニング分析を用い、保育者養成課程の3年次学生の記述と比較してみた結果、志望職の違いが子ども観や保育観に影響を及ぼしていることが明らかになった。小学校教諭や保育者の、子ども・保育に関する考え方は、養成の段階からその相違が表れているといえる。また、小学校教員養成課程の学生たちは授業進行によって記述内容の違いが認められ、保育者養成課程の学生たちの記述に類似した内容に変化していく傾向にあった。「保育内容総論」の授業内の工夫や配慮によって、小学校教員養成課程の学生の子どもや保育に対する考え方に変化をもたらす可能性を試すことができた。

キーワード：保育内容総論、テキストマイニング分析、保育観

Key words : Introduction to Child Care and Preschool program, Text Mining Analysis,
Views on childcare

1. 問題と目的

指定保育士養成施設の指定および運営の基準における「保育内容総論（保育の内容・方法に関する科目、演習）」については、保育所保育指針（平成20年3月28日厚生労働省告示第141号）における保育の内容を考慮して、保育所保育の特性である養護と教育が一体となった保育の内容が習得できるよう科目開設に配慮するように示されている（平成27年3月31日、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長）。

近年、保育者養成大学のカリキュラム編成および近年の学生の資質問題などにより、「保育内容総論」の開講時期や教授内容、授業形式における様々な課題が論じられている。平成22年3月に開催された第6回保育士養成課程等検討会では、保育士養成課程の教科目等の見直しについて検討が行われ、それまでの「保育内容」に関する科目を、「保育内容総論」と「保育内容演習（本学では、保育の5領域に関する

「保育指導法」に該当)」に分けることが言及された。その理由として、「保育内容の全体的な構造や総体を理解した上で、養護と教育にかかわる領域等について学ぶことが必要であるため」と示されている（平成22年3月9日、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課）。また、川俣ら（2015）では、「保育内容総論」と、保育内容の5領域に関するそれぞれ5つの演習科目との位置関係および相関性を明確にし、全学科教員がすべての科目の教授内容について情報を共有することが必要であると論じられている。しかしながら、これら「保育内容総論」および保育の5領域に関する「保育内容演習」の授業内容と関係性については、保育所保育指針をもとにする他は、各養成校あるいは担当教員に任されていることが現状である。養成校によっては、保育士養成課程のカリキュラム・マップ上にその関係性を示し、各担当教員が科目間の関係性や授業の中身に関して自主的に協議を行うケースもあれば、科目担当者の多くが非常勤講師であるため現実的に担当者間の意思疎通が難しいケースもある。

椋山女学園大学教育学部（愛知県名古屋市）初等中等教育専修（以下、初中とする）の入学生は小学校教諭一種免許状の取得が卒業必修となっており、オプションとして幼児教育プログラムを選択する学生は、幼稚園教諭一種免許状を取得することが可能である。「保育内容総論」の受講者は毎年初中の学生の5割前後、40～50名となっている。

本研究の目的は、初中の学生を対象にし、小学校教員志望コースの学生たちは「保育内容総論」をとおして何を学ぶかについて探索的に検討することである。具体的には、保育・初等教育専修（以下、保初とする）と初中の専修の違いを述べ、保初、初中の学生たちの「保育」と「子ども」に関する記述において、志望職の違いが子ども観や保育観にどのような影響を及ぼすか、授業進行によって初中の学生たちの記述にどのような変化が表れるか明らかにすることを目的とする。

II. 方法

1. 対象者と実施時期

2015年度後期、椋山女学園大学教育学部初中3年生43名を対象に「保育内容総論」授業を実施した。受講生は、小学校教諭一種免許を取得する初等教育プログラムを卒業必修とし、オプションとして幼稚園教諭一種免許状を取得する幼児教育プログラムを選択している。一方、保育士資格および幼稚園教諭一種免許の取得を必修とする保初の3年生86名に対しても「保育内容総論」が2クラス開講されている。保初の学生の8割以上がオプションである、小学校一種免許を取得する初等教育プログラムを選択している。記述のテーマである「保育（幼児教育）とは」、「子ども（乳幼児）とは」について、初中の「保育内容総論」の授業では、月1回の実施、保初と同授業では、初回の1回のみ実施された。

2. 授業の概要

指定保育士養成施設の指定および運営の基準（平成27年3月31日、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長）に示された「保育内容総論（保育の内容・方法に関する科目、演習）」の授業目標と内容は次の通りである。

○授業目標

1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。
3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。
4. 子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。
5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。

○内容

1. 保育の基本と保育内容
 - (1) 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
 - (2) 保育の全体構造と保育内容
2. 保育内容の歴史の変遷
3. 保育内容と子ども理解
 - (1) 子どもの発達の特性と保育内容
 - (2) 個と集団の発達と保育内容
 - (3) 保育における観察
 - (4) 保育における記録
4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
 - (1) 養護と教育が一体的に展開する保育
 - (2) 環境を通して行う保育
 - (3) 遊びによる総合的な保育
 - (4) 生活や発達の連続性に考慮した保育
 - (5) 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
5. 保育の多様な展開
 - (1) 乳児保育
 - (2) 長時間の保育
 - (3) 特別な支援を必要とする子どもの保育
 - (4) 多文化共生の保育

上記に基づき、作成された椋山女学園大学教育学部の専門展開科目「保育内容総論（3年後期、2単位）」の授業目標および内容、計画は以下の通りである。

- 授業の到達目標：実践に即して保育内容を総合的に捉える視点がもてるようにする。
保育内容における遊びの意味について理解し、子どもの発達を踏まえ保育内容を実践に活かすことができるように視野を広げる。
- 授業内容：家庭や地域において乳幼児期の子どもが経験する内容が変化している。この変化の中で今を生きる子どもたちにはどのような経験や保育の内容が必要なのか、実習における実践経験や実践事例を活用して、仲間とのグループディスカッションや実習体験の省察、エピソード記述などを通して実践的に学び、保育の面白さと奥深さに触れ、保育の理解を深める。
- 授業計画：
1. 保育・保育内容とは何か―保育所保育の原理について―
 2. 保育内容の変遷と現状―幼児にとってふさわしい生活―
 3. 保育内容の現状と保育の課題について
 4. 保育内容の基本的考え方―発達のとらえ方と保育内容（0歳児を中心に）―
 5. 発達のとらえ方と保育内容（1歳児を中心に）
 6. 発達のとらえ方と保育内容（2歳児を中心に）
 7. 発達のとらえ方と保育内容（3歳児を中心に）
 8. 発達のとらえ方と保育内容（4歳児を中心に）
 9. 発達のとらえ方と保育内容（5歳児を中心に）
 10. 保育内容と保育者の役割―子どもを理解するための子どもを観る目―
 11. 保育の一日の流れと保育内容
 12. 保育内容と遊び―幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み解く①―
 13. 保育の内容と計画―幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み解く②―
 14. 保育内容の展開と実際の園生活
 15. 保育内容をとらえる視点と展開のポイント

Ⅲ. 結果と考察

受講生の記述分析に当たっては、樋口(2014)の分析を参考に、KH Coder (Ver.2.beta.30e)を使用した。まず、初中43名の全4回分の「保育とは」に対する記述を分析対象とし、文章の単純集計の結果、277の文が確認された。また、総抽出語（分析対象ファイルに含まれている全ての語の延べ数）は、3,973、異なり語数（何種類の語が含まれていたかを示す数）は、466であった。さらに、助詞や助動詞など、どのような文章にでもあらわれる一般的な語が除外され、分析に使用される総抽出語として1,730語（異なり語数：359）が抽出された。

初中43名の全4回分の「子どもとは」に対する記述を分析対象とし、文章の単純集計の結果、321の文が確認された。また、総抽出語（分析対象ファイルに含まれている全ての語の延べ数）は、3,564、異なり語数（何種類の語が含まれていたかを示す数）は、503であった。さらに、助詞や助動詞など、どのような文章にでもあらわれる一般的な語が除外され、分析に使用される総抽出語として1,578語（異なり語数：384）が抽出された。

比較のため、保初86名の「保育とは」および「子どもとは」に対する記述を分析の対象にし、初中と同様、文章の単純集計を行った（表1参照）。

表1 初中と保初学生の文章の単純集計の結果

	初中 (n=43)		保初 (n=86)	
	ケース数：277文		ケース数：604文	
保育とは	総抽出語（使用）	異なり語数（使用）	総抽出語（使用）	異なり語数（使用）
	3,973 (1,730)	466 (359)	4,940 (2,422)	249 (180)
子どもとは	ケース数：321文		ケース数：497文	
	総抽出語（使用）	異なり語数（使用）	総抽出語（使用）	異なり語数（使用）
	3,564 (1,578)	503 (384)	3,367 (1,466)	227 (171)

初中の学生たちの記述は後期の授業中4回行い、保初 of 学生たちの記述は後期の初め、1回しか実施されていないが、どちらも保初のケース数が初中のケース数を大きく上回っている。「保育とは」に関する記述については保初の学生たちの文章の総抽出語数が967語多かった。一方、初中の学生数は保初の学生の半数であるにもかかわらず、異なり語数に関しては保初より初中の学生たちの方が多く、ばらつきが大きいことが明らかになった。15回の授業が進むにつれ、学ぶ内容によって考え方も変わり、毎回違う内容が書かれたことがうかがわれる。

次に、それぞれ専修の学生たちの記述データの中で特に多く用いられた言葉にはどのようなものがあつたか確認するため、頻出語を抽出した。表2に示されているように、「保育とは」というテーマに関する初中と保初の頻出語は、上位二つである‘子ども’と‘成長’が一致していた。また、頻出順位は異なるものの、‘生活’、‘学ぶ’、‘伸ばす’、‘援助’、‘関係’、‘人間’、‘健康’などが一致していた。初中は授業進行の途中でも、同じテーマについて記述を求めたので、授業を通して学んだ内容が反映されているといえる。

‘子どもとは’というテーマに関する初中と保初の頻出語は、上位一つである‘成長’が一致していた。また、頻出順位は異なるものの、‘たくさん’、‘可能’、‘吸収’、‘人間’、‘必要’、‘学ぶ’、‘無限’などが一致していた。

表3は、初中と保初 of 学生たちのテーマ別記述内容における特徴的な言葉を上位10位ずつリストアップしている。数値は、各言葉とテーマとの関連を表す Jaccard の類似性測度である。Jaccard の類似性測度は0から1までの値をとり、各集団のテーマ別にその特徴との関連が強いほど1に近づく（樋口，2014）。リストアップされた言葉は、データ全体に比してそれぞれの記述テーマにおいて特に高い確率で出現している言葉である。‘子どもとは’というテーマにおいて初中および保初 of 受講生で一致して抽出された特徴語は、‘成長’、‘存在’、‘たくさん’、‘可能’であつた。‘保育とは’というテーマにおいて初中および保初 of 受講生で一致して抽出された特徴語は、‘子ども’、‘生活’の二つであつた。

表2 初中と保初の学生たちの記述における頻出語リスト

	保育とは				子どもとは			
	初中		保初		初中		保初	
	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
1	子ども	123	子ども	276	成長	69	成長	86
2	成長	41	成長	102	存在	55	可能	77
3	生活	38	人間	78	たくさん	27	人	58
4	教育	35	生活	65	大人	27	存在	58
5	学ぶ	33	日々	64	可能	25	吸収	47
6	領域	33	寄り添う	53	周り	23	素直	46
7	身	29	発達	46	好奇	22	たくさん	38
8	保育	27	習慣	44	吸収	21	気づく	38
9	支援	26	違う	43	心	20	未来	35
10	環境	22	安全	42	興味	19	愛す	31
11	伸ばす	22	気持ち	42	自分	19	背負う	31
12	遊び	21	未来	42	受ける	19	感性	25
13	行う	20	形成	41	日々	19	人間	25
14	養護	19	感性	38	人	17	全て	24
15	援助	18	関係	38	人間	17	秘める	24
16	必要	18	楽しい	37	必要	17	学ぶ	22
17	幼児	18	安心	35	環境	16	生活	22
18	活動	17	見守る	34	素直	16	無限	22
19	可能	16	共感	33	旺盛	15	援助	19
20	関係	15	健康	32	大きい	15	豊か	19
21	個性	15	創る	32	愛情	12	無限	17
22	社会	15	心身	31	影響	12	無邪気	17
23	大切	14	援助	30	保育	12	信頼	15
24	関わる	13	図る	30	様々	12	いろいろ	14
25	基礎	13	研究	29	学ぶ	11	世界	14
26	見守る	13	伸ばす	29	子ども	11	大人	13
27	広げる	13	学ぶ	28	豊か	11	必要	13
28	考える	13	守る	28	無限	11	場	12
29	人間	13	過ごす	27	時期	10	純粹	11
30	健康	11	育てる	23	生きる	10	様々	10

表3 初中と保初の学生たちの記述における特徴語リスト

初中				保初			
子どもとは		保育とは		子どもとは		保育とは	
成長	.344	子ども	.531	可能	.656	子ども	.876
存在	.310	生活	.222	吸収	.473	日々	.337
大人	.170	領域	.212	素直	.452	人間	.328
たくさん	.160	教育	.204	存在	.409	寄り添う	.303
周り	.147	学ぶ	.175	人	.394	生活	.292
可能	.146	支援	.160	たくさん	.387	安全	.256
好奇	.142	身	.156	気づく	.366	発達	.256
吸収	.136	保育	.139	成長	.365	習慣	.244
心	.128	伸ばす	.135	背負う	.333	違う	.232
日々	.122	環境	.129	愛す	.323	形成	.232

頻出語および特徴語においては、それぞれ専修別に一致する言葉が多く存在しているが、使われている文脈には差があった。次の記述からわかるように、各専修の学生たちの考え方の違いが明らかに表れている。保育観、すなわち保育者のもつ保育についての見方・考え方は、その人個人の成長・発達のプロセスと深いつながりがあり、そのほとんどが養成大学時代に形成される（梶田・杉村・後藤・吉田・桐山，1990）ことが読みとれる結果であり、幼保小連携の妨げにつながる価値観の違いが養成の段階から認められると言える。

初中（子どもとは）	保初（子どもとは）
<ul style="list-style-type: none"> ・未熟な存在 ・小学校に就学する前まで ・生まれて間もなく他の人の支えがないと生きていけない ・一人で生きていけない存在 ・まだ自分ではあまり何もできない 	<ul style="list-style-type: none"> ・無限の可能性を秘めている存在 ・たくさんのことを吸収できる人 ・大人にいろんなことを教えてくれる ・たくさんのことを気づかせてくれる ・いろんな能力をもっている
初中（保育とは）	保初（保育とは）
<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育を受ける前の子どもがそれを受ける前の準備として受ける教育 ・子どもが小学校に入り、生活面も含めて、それ以降も学んでいく基礎を身につけさせるもの ・0～5歳を対象とした子どもに教育させることで、生活する上で基本的なことを身につけさせること 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとり違った子どもたちが集まり、集団で一緒に楽しく生活習慣や思いやりなどを育てる場 ・子どもとともに成長すること ・子どもの気持ちを考える。豊かに発達、健やかな発達、日々研究すること。感性を伸ばす。共感、心身の安全

表4と表5は、初中の学生たちの授業進行中、各テーマについて月1回記述してもらった文章の回数別特徴語を表している。どちらのテーマにおいても回数別の共通語がほとんど存在しなかった点から、授業が進むにつれ授業内容の影響を受けて、各テーマに関する考え方が揺さぶられたといえる。

表4 初中クラスの「保育とは」に関する記述の回数別特徴語リスト

1回	2回	3回	4回
子ども .277	学ぶ .224	保育 .200	養護 .395
成長 .259	領域 .210	生活 .141	教育 .271
支援 .184	生活 .182	関わる .140	生活 .145
援助 .133	遊び .170	幼児 .128	安定 .140
健康 .128	身 .155	親 .125	保育 .138
人間 .122	成長 .155	伸ばす .115	生命 .116
前 .118	伸ばす .146	環境 .113	保持 .116
必要 .111	環境 .143	行う .100	情緒 .116
表現 .100	社会 .143	保護 .100	活動 .113
関係 .093	支援 .136	引き出す .100	行う .109

表5 初中クラスの「子どもとは」に関する記述の回数別特徴語リスト

	1 回		2 回		3 回		4 回
存在	.157	成長	.236	成長	.207	成長	.200
大人	.154	好奇	.182	可能	.146	存在	.187
小学校	.121	吸収	.164	日々	.118	必要	.160
人	.114	たくさん	.153	周り	.109	保育	.130
必要	.111	興味	.148	経験	.095	周り	.123
生活	.111	大人	.148	心	.094	大きい	.122
周り	.098	素直	.135	様々	.087	可能	.119
旺盛	.091	受ける	.130	人	.080	心	.109
発達	.086	様々	.122	自分	.080	人間	.098
豊か	.077	可能	.115	見る	.075	自分	.096

表4と表5の特徴語が含まれている記述は下記の通りである。下線の言葉は抽出された特徴語である。

初中クラスの「保育とは」	
1 回目	<ul style="list-style-type: none"> 一人の<u>人間</u>としてこれから<u>必要</u>な社会性やルールに気づくよう<u>援助</u>する <u>援助</u>をしながら、<u>子ども</u>が<u>成長</u>できるようにする 一人ひとりの<u>成長</u>を<u>援助</u>するもの、<u>成長</u>の手助け、支援
2 回目	<ul style="list-style-type: none"> 小学校へ上がる前の段階の基礎、知識を学ぶ。<u>5 領域</u>を通して<u>成長</u>する 乳幼児が食事、排泄、<u>生活習慣</u>などの基礎を学ぶ援助をする <u>遊び</u>を通していろんなことを<u>学ばせる</u>こと、小学校に上がる上での最低限の能力を<u>身</u>につけること
3 回目	<ul style="list-style-type: none"> <u>保護者</u>だけでなく<u>子どもに関わる人</u>みんなで子どものお手本となり育てていくこと 大人という<u>環境</u>に働きかけられたり、働かせたりして人格を形成していく教育 一人の人間を形成するために必要な知識を教えるもの、学力ではない<u>生活</u>に必要な不可欠な知識
4 回目	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちに寄り添い、子どものことを一番に考えながら<u>行</u>う教育 日常生活の仕方や友達関係などを学ばせる <u>養護</u>と<u>教育</u>が一体となったもの、<u>活動</u>の中に子どもたちに考えさせる部分がある
初中クラスの「子どもとは」	
1 回目	<ul style="list-style-type: none"> <u>大人</u>の援助が必要な<u>存在</u> <u>周りの人</u>の助けを受けながら<u>生活</u>する<u>人</u> 生まれてから<u>小学校</u>に入学するまでの子のこと
2 回目	<ul style="list-style-type: none"> <u>大人</u>の補助がないと一人で生きていけない <u>大人</u>から守られるべき存在 保育者など<u>大人</u>に見守られながら自分のやりたいことをやり、<u>たくさん</u>のことを<u>吸収</u>することができる
3 回目	<ul style="list-style-type: none"> 一人では生きていけない存在、<u>日々</u>大きく<u>成長</u>し続ける存在 無限大の<u>可能性</u>をもつ存在、様々な<u>経験</u>を吸収し<u>成長</u>する存在 <u>周りの人</u>の影響をたくさん受けながら、<u>日々</u><u>成長</u>していく存在

-
- 4 回目 ・ 自分だけではできることが少なく、自分の気持ちにとっても素直で我慢をしない。心身ともに成長が著しく周りの影響を受けやすい
- ・ 一人では生きていけない守られる存在、大人の真似をする
- ・ 周りの助けを必要とするが、好奇心旺盛で希望と可能性に満ち溢れている人間
-

幼児期の道德発達に関する保育者と小学校教諭の認識に関する越中（2016）の研究によれば、保育者は小学校教諭に比して、年長児は自分のことは自分であることができ、自分の気持ちを押さえて我慢することができるというイメージしていた。他方、小学校教諭は、保育者に比して、年長児ではやって良いことと悪いことの区別は難しく、大人が正しいと言えば何でも正しいと判断するとイメージしていた。また、越中・小津・白石（2011）では、「道徳性や規範意識の芽生えを培う上で幼児期にどのような指導・配慮が必要か」と尋ね、テキストマイニングによる分析を行った結果、小学校教諭では、「きちんと」「しっかり」「～させる」などの語が頻出した。具体的には、小学校教諭では「幼児期からルールや決まりをきちんと守らせる、しっかり意識させる」など教育の目標や指導内容を重視した記述が特徴的であった。他方、保育者では、「見る」「聞く」「思い」「気持ち」「理解」などの語が頻出し、「子どもの様子を見て、話を聞き、思いや気持ちを理解する」など、子どもに寄り添うことを重視した記述が特徴的であった。さらに、同研究（越中・小津・白石、2011）では、養成課程の学生は、現職者と比較して、道徳指導において賞罰による直接教示を志向する傾向にあり、幼稚園実習未経験者および他専攻の学生が「子どもたちに直接的な指導を行う（必要に応じて介入・注意する）」と記述する傾向にあったのに対して、幼稚園実習経験者は「子どもの気持ちや思いの理解」あるいは「友達や相手との相互作用」を重視した記述を行う傾向にあった。本研究においても初中の学生たちと保初の学生たちの記述とは保育観と子ども観の相違が認められた。また、初中の授業進行中4回実施した各テーマに関する記述では、回数別に抽出された特徴語および記述内容が異なり、回数が増えるにつれ保初の学生たちの考え方に多少近づく傾向が見られた。本授業の最終課題では、初中の学生たちに4回にわたる各テーマに関する記述用紙を返却し、学生自身の感想を書いてもらった。一部を抜粋したものは次の通りである。

- ・ この授業を受けて、私は初中ということもあり、小学校教育についての授業が多いため、考え方がどうしても教育よりになってしまっていることがわかった。しかし、この授業の中で、子どもの気持ちになって考えてみたり、こんなときはどんな援助をしたらいいのかなど考える場面が多く、最初は、幼児の気持ちになって考えることがすごく難しく理解してあげることができなかったけれど、何回もやっていくうちに、少しずつ、今A子ちゃんはこんな気持ちじゃないかな、こういう工夫をしたら子どもたちは楽しく活動に取り組めるのではないかな、など考えられるようになり、自分の中の保育観が少しずつ成長しているように感じた。
 - ・ この授業の最初では「乳幼児とは、まだ自分では何もできず、補助が必要な段階」と書いた。しかし、最後の授業では、「乳幼児とは、意欲の塊であり、‘保育者の乳幼児にやりたいと思わせる環境づくり’により乳幼児の成長の可能性は無限に広がる

存在」とある。授業を終えて、これほど自分自身の見る目に変化があることに驚いた。最初は「補助が必要な段階」とあげているように、ただお世話をしていればいいという考えが自分にはあった。しかし、まだ自分では何もできない存在だとしても、乳幼児には周りの人を引き寄せる力や物事に対して興味・関心が強く何事にも学びたい、知りたいという好奇心があることを学んだ。

- ・この講義で学んできたことで、自分の幼児に対する目は明らかに異なっている。もちろん幼児を保育的な意味の視点から見ることができるようになったということだ。保育の難しさや面白さも学ぶことができた。私は保育者にはならないが、自分が子育てをする身になった時にはこれらの学んだ知識をフルに活用して、子育てをしていこうと思う。
- ・この授業を15回終えた時に、幼児教育や乳幼児に関する初回の考え方とは違った感じ方をしていた。幼児について考える機会が増えたと思う。
- ・‘保育’に関する印象では、単に小学校に向けて必要な能力を身につけることという保育は義務的な仕事であるという考え方から、子どもがのびのびと育つために保育者の養護の力を入れることという子どものことを第一とするという考え方に変化した。

IV. まとめおよび今後の課題

本研究では、初中コースにおける「保育内容総論」授業を通して、志望職の違いが子ども観や保育観にどのような影響を及ぼしているか、また授業進行によって初中の学生たちの記述における違いについてテキストマイニング分析を通してその特徴を確認することができた。小学校教諭や保育者の、子ども・保育に関する考え方は、養成の段階からその相違が認められ、「保育内容総論」授業内の工夫や配慮でその違いを縮められる可能性も試すことができたといえる。今後は、小学校以上の教諭および保育者の保育観・子ども観の変化に影響を及ぼす社会文化的環境を含む養成課程の要因についてより詳細な検討を行う必要がある。

謝 辞

本論文の執筆にあたり、ご助言・ご協力いただいた小島千恵子先生（名古屋短期大学）にこころより感謝申し上げます。

■引用文献

- 越中康治（2016）幼児期の道徳発達に関する保育者と小学校教諭の認識 宮城教育大学情報センター研究紀要, 23, 33-36.
- 越中康治・小津草太郎・白石敏行（2011）保育士及び幼稚園教諭と小学校教諭の道徳指導観に関する予備的検討 宮城教育大学紀要, 46, 203-211.
- 梶田正巳・杉村伸一郎・後藤宗理・吉田直子・桐山雅子（1990）保育観の形成過程に関する事例研究 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科, 37, 141-162.
- 川俣沙織・川俣美砂子・永渕美香子・圓入智仁・増田隆・那須信樹（2015）「保育内容総論」運営上の課題に関する研究 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 47, 217-222.
- 厚生労働省（2008）保育所保育指針解説書 フレーベル館

厚生労働省（2010）保育士養成課程等の改正について（中間まとめ：保育士養成課程の教科目（科目名，目標，教授内容）等の見直しについて）（平成22年3月9日第6回保育士養成課程等検討会，厚生労働省雇用均等・児童家庭局長） <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0309-6.html>（2016年10月18日）

厚生労働省（2015）指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（平成27年3月31日，厚生労働省雇用均等・児童家庭局長） <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintou-jidoukateikyoku/0000108972.pdf>（2016年10月11日）

樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して— ナカニシヤ出版